

鉄鋼概況

2012年世界鉄鋼需要 初の14億トン超えへ

鉄鋼エコノミスト 左近司 忠政

9月の国内粗鋼生産量は、震災の復旧・復興工事の遅れや円高の長期化などの影響により、前年同月比1.0%減で7カ月ぶりに前年同月実績を下回った。9月の全鉄鋼輸出は5カ月連続で前年比増、輸入は前年同月比8.4%増で3カ月ぶりの前年比増となった。経済産業省による2012年10～12月期の見通しでは、粗鋼需要量は前期比3.6%減で3四半期ぶりに減少する。2012年10月1日、新日本製鉄と住友金属工業の統合新会社「新日鉄住金」が発足し、新会社は年間の粗鋼生産量でアルセロール・ミッタル（ルクセンブルグ）に次ぐ世界第2位の鉄鋼メーカーとなる。統合効果について3年をめどに年率1,500億円を達成するとしている。日新製鋼と日本金属工業は10月1日に経営統合し、共同株式移転による持株会社「日新製鋼ホールディングス」を設立して、ステンレス製品の販売機能は日新製鋼に集約する。世界鉄鋼協会は世界鋼材需要の2012年見込みと2013年見通しを発表し、2012年は前年比2.1%増で初めて14億トンを超える見込みとなっている。9月の世界（62カ国）粗鋼生産量は、前年同月比ほぼ横這いで、年率15億トンを2カ月ぶりに回復し、日産量は前月比3.3%増と3カ月ぶりに増加した。中国は2.0%増と3カ月ぶり、中国以外は4.6%増と5カ月ぶりに増加した。

@@

◆9月粗鋼生産量、7カ月ぶりに前年水準割れ

鉄鋼連盟が発表した8月末の普通鋼鋼材の国内在庫（メーカー・問屋段階）は、前月末比15万5,000トン、2.9%増の556万6,000トンとなり、3カ月ぶりに増加した。在庫率は前月末比16ポイント上昇し、152%となった。一方、8月末の普通鋼鋼材の流通在庫は、鉄連が行った全国市中鋼材数量調査によると、前月末比1,000トン増の269万2,000トンとほぼ横這いで推移した。販売量は前月比5.1%、13万7,000トンの253万トンとなり、その結果、在庫率は前月末比5.5ポイント上昇し、106.4%となり、21カ月連続して100%を上回った。

主要製品の在庫状況をみると、8月末の薄板3品（熱延・冷延・表面処理鋼板）の国内在庫（メーカー・問屋・コイルセンターの合計）は、前月末比17万2,000トン増の408万9,000トンと3カ月ぶりに増加した。在庫率は前月の2.18カ月から2.31カ月に悪化した。8月末は過去10年平均で前月比約20万トン増となっており、今回もユーザーの盆休みという季節要因で増加した。メーカーでは、先行き不透明感が強いいため、これまで以上に実需見合いの生産が求められるとしている。

主要建材製品であるH形鋼の9月末流通在庫は、新日鉄住金の商社・特約店組織である「ときわ会」のまとめによると、前月末比900トン、0.5%減の17万9,300トンとなった。在庫率は1.92カ月で、1カ月台となるのは2011年12月以来9カ月ぶりとなる。ただ、同社では需給バランス改善にはもう一段の圧縮が必要とみている。

鉄連が発表した9月の国内粗鋼生産量は、前年同月比1.0%減の879万8,000トンにとど

まり、7カ月ぶりに前年同月実績を下回った。震災の復旧・復興工事の遅れや円高の長期化などで鋼材需要が内外で伸び悩んだのが影響した。1日当たりの生産量でも29万3,300トン（年率換算1億700万トン）で前月比1.2%減となった。炉別生産では転炉鋼が前年同月比0.4%減の678万トンで6カ月の減少、電炉鋼も同3.1%減の202万トンで2カ月連続の減少となった。その結果、2012年度上半期（4～9月）の粗鋼生産量は前年同期比2.7%増の5,476万トン（年率換算1億800万トン）となった。震災影響による一時的な生産活動低下があった前年同期に比べ、140万トン増加した。上期の炉別生産は、転炉鋼が同2.7%増の4,216万トン、電炉鋼が2.8%増の1,260万トンとなった。

財務省が発表した9月の鉄鋼貿易統計によると、輸出（全鉄鋼）は353万1,000トンで、5カ月連続で前年水準増となり、前月比では3.1%減で2カ月連続の減少となった。一方、輸入は前年同月比8.4%増の60万6,500トンとなり3カ月ぶりの前年比増、前月比では4.5%減で2カ月連続の減少となった。

国・地域別輸出をみると、韓国・台湾のアジアNIE's向けは109万4,000トン（前年同月比15.4%増）で3カ月連続で増加し、ASEAN向けも5カ月連続で増加し108万1,000トン（同14.0%増）だった。一方、中国向けは反日運動の影響もあり49万2,000トン（同15.1%減）と2カ月連続の前年割れとなった。アジア以外では中東向けが12万9,000トン（同横這い）、米国向けが25万1,000トン（同46.5%増）だった。国・地域別輸入では、アジアNIE'sからが40万9,000トン（同25.9%増）、中国からが9万2,000トン（同7.4%増）だった。

◆10～12月期国内粗鋼需要2,654万トンー経産省見通し

経済産業省が発表した2012年度第3四半期（10～12月）の見通しによると、出荷相当粗鋼需要量は前期比3.6%減の2,654万トンと3四半期ぶりに減少する。鋼材需要は3.3%減の2,349万トンと2期ぶりに減る。普通鋼鋼材の需要は前期比3.3%減（前年同期比0.0%増）の1,863万トンとなる。うち国内は同1.1%減（同4.9%減）の1,223万トンと2期ぶりに減り、輸出は同7.2%減（同9.4%増）の640万トンと4期ぶりに減少する。

国内需要を部門別にみると、土木は期ずれの影響で155万トンと前期比18.2%増となる。建築は住宅がエコポイント終了で減、非住宅も設備投資の様子見で減少するため、同4.0%減の342万トンと見込まれる。製造業の需要は、自動車は完成車、ノックダウンともに輸出は堅調だが、補助金終了で国内販売が減るために、同5.5%減の280万トンになる。造船は建造ベースが落ち5.4%減の108万となる。産業機械はクレーンなど運搬機械が好調で1.4%増の133万トン、電気機械は自動車向け発電機の減少などで4.5%減の76万トンと見込まれる。

普通鋼鋼材の輸出は、第3四半期は世界経済が減速するなかで円高が継続し、中国、韓国の過剰生産の厳しい環境が続き、50万トンの減少を想定し、半製品輸出も5.1%減を見込んでいる。特殊鋼鋼材は、自動車関連需要の減速で国内需要、輸出ともに前期比を下回り、同3.4%減の486万トンと見通している。

◆「新日鉄住金」、10月1日に発足

2012年10月1日、新日本製鉄と住友金属工業の統合新会社「新日鉄住金」が発足した。新会社は年間の粗鋼生産量が4,300万トン強（2011年度）と、アルセロール・ミッタル（ルクセンブルグ）に次ぐ世界第2位の鉄鋼メーカーとなる。同社では、①鉄鋼事業のグローバル展開、②技術先進性の発揮、③コスト競争力の強化、④製鉄以外の分野での事業基盤

の強化——の四つの施策の実行を通じて「総合力世界No.1の鉄鋼メーカー」を目指すとしている。「新日鉄住金」は統合効果について3年をめどに年率1,500億円を達成するとし、また6~7千万トンのグローバル年産規模の実現に取り組むとしている。

また、日新製鋼と日本金属工業は10月1日に経営統合し、共同株式移転による持株会社「日新製鋼ホールディングス」を設立した。ステンレス製品の販売機能は日新製鋼に集約する。持株会社、日新、日金工の3社は1年後か1年半後をめどに合併を予定している。

◆2013年世界鋼材需要14億5,500万トン—WSA見通し

10月上旬、世界鉄鋼協会（WSA）は年次総会をインドのニューデリー市で開催し、席上事務局は世界鋼材需要の2012年見込みと2013年見通しを発表した。2012年は前年比2.1%増の14億940万トンと初めて14億トンを超える見込みとなっている。EU27カ国は欧州危機の影響で同5.6%減少するが、BRIC'sは2.7%増となり、その内インドが5.5%増と牽引役となっている。北米は住宅市場の回復で7.5%増、日本は震災復興需要などで2.2%増となる。2013年の鋼材需要は、前年比3.2%増の14億5,500万トンと見通している。中国は政府の景気対策効果を見込んで前年比3.1%増の6億5,920万トンとみている。BRIC'sは同3.3%増で、うちインドは5.0%増とみている。中南米は6.3%増となり5,000万トンに達する。先進国ではEU27が欧州債務危機対策の効果をみて2.4%増、北米が3.6%増、日本は超円高による輸出産業の後退を受けて、2.9%減の6,360万トンにとどまるとみている。

表1 世界鋼材見掛け消費見通し

(単位:100万トン, カッコ内前年比%)

	2012	2013
E U 2 7 カ 国	144.5 (△ 5.6)	148.1 (2.4)
他 欧 州	34.4 (3.8)	36.0 (4.5)
C I S	55.2 (0.8)	57.4 (3.9)
N A F T A	130.4 (7.5)	135.1 (3.6)
中 南 米	47.4 (3.8)	50.4 (6.3)
ア フ リ カ	25.3 (5.8)	27.3 (7.7)
中 東	49.9 (3.5)	52.8 (5.9)
アジア・オセアニア	922.2 (2.4)	947.9 (2.8)
中 国	639.5 (2.5)	659.2 (3.1)
イ ン ド	73.6 (5.5)	77.3 (5.0)
日 本	65.5 (2.2)	63.6 (△2.9)
世 界 計	1,409.4 (2.1)	1,454.9 (3.2)

(資料) 世界鉄鋼協会まとめ

◆9月世界粗鋼生産、年率15億トンに回復

世界鉄鋼協会によると、9月の世界（62カ国）粗鋼生産量は、前年同月比ほぼ横這いの1億2,366万トンとなり、年率で15億トンを2カ月ぶりに回復した。9月の62カ国の日産量は、前月比3.3%増と3カ月ぶりに増加した。中国は2.0%増と3カ月ぶり、中国以外は4.6%増と5カ月ぶりに増加した。新興工業国では韓国の9月の日産量は前月比2.8%と2カ月ぶりに増加し、インドは0.003%増ながら2カ月連続の増、ブラジルは2.9%と2カ月ぶりの増となった。先進国では、EU27の9月の日産量は前月比20.9%増と15.3%減だった8月から急激に回復した。北米は3.6%減と2カ月ぶりに減少し、日本は1.3%減と3カ月連続で減少した。1~9月の62カ国の生産は前年同期比0.6%増の11億4,944万トンとなり、年率では初の15億トンに乗せるペースを維持した。主要国別にみると、中国が前年同期比1.7%増の5億4,234万トン、EU27が同4.6%減の1億2,965万トン、米国が5.3%増の6.815万トン、ロシアが4.7%増の5,387万トン、日本が0.4%増の8,132万トンとなった。 □